

15 指一2 がん専門医療施設を活用したがん診療の標準化に関する共同研究

主任研究者 国立がんセンター東病院 吉田 茂 昭

研究成果の要旨

今年度に得られた主な研究成果は以下の通りである。1) がん政策医療ネットワーク施設における政策的課題としてがん化学療法の実態調査を行うこととし、その要因解析を行った。2) 大腸手術に関わる3本の多施設共同臨床試験のうち術後の至適抗生剤投与法の評価に関し3回投与法の優越性を証明した。3) 早期消化管がんの新たな内視鏡的治療法である切開剥離法(ESD)について治療技術の改良、費用対効果の評価を行った。4) 頭頸部がん治療ガイドライン作成を完了しその妥当性についての評価を行った。5) 最近治療患者が急増している放射線治療の実態調査、標準化のための施策を検討した。6) 緩和医療については呼吸困難を中心的課題として取り上げ、標準化を図るための臨床試験を継続中である。7) がん専門医療施設における若手専門医の合理的な教育カリキュラムを策定するため、欧米の卒後教育プログラムの実態調査を行い、基本的には被我的差が存在しないことを確認すると共に、レジデントを対象としたポーフォーリオによる教育効果の評価に着手した。

研究者名および所属施設

研究者名	所属施設および職名	分担研究課題
吉田 茂昭	国立がんセンター東病院 院長	総括研究報告
田村 友秀	国立がんセンター中央病院 部長	がん政策医療ネットワークにおける臨床課題解決のためのデータベース構築に関する研究
山城 勝重	国立病院機構北海道がんセンター 臨床研究部長	がん政策医療ネットワークにおける臨床課題解決のためのデータベース構築に関する研究
横田 隆	国立療養所東北新生園 副園長	がん政策医療ネットワークにおける臨床課題解決のためのデータベース構築に関する研究
磯部 陽	国立病院機構東京医療センター 医長	がん政策医療ネットワークにおける臨床課題解決のためのデータベース構築に関する研究
石ノ井 光一	国立がんセンター 研究所 研究員	がん政策医療ネットワークにおける臨床課題解決のためのデータベース構築に関する研究
永井 宏和	国立病院機構名古屋医療センター 部長	がん政策医療ネットワークにおける臨床課題解決のためのデータベース構築に関する研究
辻仲 利政	国立病院機構大阪医療センター 医長	がん政策医療ネットワークにおける臨床課題解決のためのデータベース構築に関する研究
谷水 正人	国立病院機構四国がんセンター東 部長	がん政策医療ネットワークにおける臨床課題解決のためのデータベース構築に関する研究
横田 昌樹	国立病院機構九州がんセンター 医長	がん政策医療ネットワークにおける臨床課題解決のためのデータベース構築に関する研究

15 指-2 がん専門医療施設を活用したがん診療の標準化に関する共同研究

吉野 正曠	国立がんセンター東病院 部長	がん政策医療ネットワークにおける臨床課題解決のためのデータベース構築に関する研究
森谷 亘皓	国立がんセンター中央病院 部長	大腸がんにおける診断、治療フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究
齋藤 典男	国立がんセンター東病院 部長	大腸がんにおける診断、治療フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究
岡村 健	国立病院機構九州がんセンター 部長	大腸がんにおける診断、治療フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究
近藤 健	国立病院機構名古屋医療センター 部長	大腸がんにおける診断、治療フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究
池田 栄一	山形県立中央病院 副院長	大腸がんにおける診断、治療フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究
大植 雅之	大阪府立成人病センター 参事兼医長	大腸がんにおける診断、治療フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究
瀧井 康公	新潟県立がんセンター新潟病院 部長	大腸がんにおける診断、治療フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究
山田 哲司	石川県立中央病院 院長	大腸がんにおける診断、治療フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究
久保 義郎	国立病機構四国がんセンター 医員	大腸がんにおける診断、治療フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究
斉藤 大三	国立がんセンター中央病院 部長	早期消化器がんに対する内視鏡的治療法の開発と標準化に関する研究
土井 俊彦	国立がんセンター東病院 医長	早期消化器がんに対する内視鏡的治療法の開発と標準化に関する研究
道田 知樹	国立病院機構大阪医療センター 医員	早期消化器がんに対する内視鏡的治療法の開発と標準化に関する研究
高橋 寛	(財)癌研究会有明病院 所長	早期消化器がんに対する内視鏡的治療法の開発と標準化に関する研究
門馬 久美子	都立駒込病院 医長	早期消化器がんに対する内視鏡的治療法の開発と標準化に関する研究
那須 淳一郎	国立病院機構四国がんセンター 医員	早期消化器がんに対する内視鏡的治療法の開発と標準化に関する研究
石川 勉	栃木県立がんセンター 部長	早期消化器がんに対する内視鏡的治療法の開発と標準化に関する研究
斎藤 豊	国立がんセンター中央病院 医員	早期消化器がんに対する内視鏡的治療法の開発と標準化に関する研究
林 隆一	国立がんセンター東病院 医長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究
平野 滋	国立病院機構京都医療センター 医長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究
富田 吉信	国立病院機構九州がんセンター 医長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究
吉野 邦俊	大阪府立成人病センター 部長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究

15 指-2 がん専門医療施設を活用したがん診療の標準化に関する共同研究

長谷川 泰久	愛知県がんセンター 部長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究
西條 茂	宮城県立がんセンター 副院長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究
門田 伸也	国立病院機構四国がんセンター 医長	頭頸部がん治療の標準化に関する研究
池田 恢	国立がんセンター中央病院 部長	固形がんに対する放射線治療の標準化に関する研究
西尾 正道	国立病院機構北海道がんセンター 部長	固形がんに対する放射線治療の標準化に関する研究
荻野 尚	* ¹ 国立がんセンター東病院 部長	固形がんに対する放射線治療の標準化に関する研究
荻野 尚	* ² 国立がんセンター臨床開発センター 部長	固形がんに対する放射線治療の標準化に関する研究
加賀美 芳和	国立がんセンター中央病院 医長	固形がんに対する放射線治療の標準化に関する研究
片岡 正明	国立病院機構四国がんセンター 医長	固形がんに対する放射線治療の標準化に関する研究
幡野 和男	千葉県がんセンター 部長	固形がんに対する放射線治療の標準化に関する研究
松本 康男	新潟県立がんセンター新潟病院 医長	固形がんに対する放射線治療の標準化に関する研究
斎藤 龍生	国立療養所 西群馬病院 院長	がん患者における緩和医療（支持療法）の普及と評価に 関する研究
木下 寛也	国立がんセンター東病院 医長	がん患者における緩和医療（支持療法）の普及と評価に 関する研究
下山 直人	国立がんセンター中央病院 医長	がん患者における緩和医療（支持療法）の普及と評価に 関する研究
小原 弘之	県立広島病院 医長	がん患者における緩和医療（支持療法）の普及と評価に 関する研究
内富 庸介	* ¹ 国立がんセンター研究所支所 部長	がん患者における緩和医療（支持療法）の普及と評価に 関する研究
内富 庸介	* ² 国立がんセンター臨床開発センター 部長	がん患者における緩和医療（支持療法）の普及と評価に 関する研究
田中 桂子	静岡県立静岡がんセンター 副医長	がん患者における緩和医療（支持療法）の普及と評価に 関する研究
新海 哲	国立病院機構四国がんセンター 副院長	がん専門医療施設における臨床教育体制の設備とその評 価法の開発に関する研究
今岡 真義	大阪府立成人病センター 総長	がん専門医療施設における臨床教育体制の設備とその評 価法の開発に関する研究
山下 幸紀	国立病院機構北海道がんセンター 院長	がん専門医療施設における臨床教育体制の設備とその評 価法の開発に関する研究
山村 義孝	愛知県がんセンター 院長	がん専門医療施設における臨床教育体制の設備とその評 価法の開発に関する研究

15 指-2 がん専門医療施設を活用したがん診療の標準化に関する共同研究

塚本 直樹	国立病院機構九州がんセンター 院長	がん専門医療施設における臨床教育体制の設備とその評価法の開発に関する研究
澤田 俊夫	群馬県立がんセンター 院長	がん専門医療施設における臨床教育体制の設備とその評価法の開発に関する研究
土屋 了介	国立がんセンター中央病院 副院長	がん専門医療施設における臨床教育体制の設備とその評価法の開発に関する研究
伊藤 一人	群馬大学大学院医学系研究科 講師	局所進行前立腺がんに対する内分泌療法・放射線療法併用の意義に関する研究
二村 雄次	名古屋大学大学院医学系研究科 教授	共通プロトコールに基づいた膵がんの外科的療法の評価に関する研究
土井 隆一郎	京都大学医学研究科 講師	共通プロトコールによる膵癌治療の評価に関する研究
目良 清美	国立がんセンター東病院 医員	原発性胃悪性リンパ腫に対する非外科的治療の適応と有効性の評価に関する研究

* 1：平成17年4月1日～平成17年9月30日
* 2：平成17年10月1日～平成18年3月31日

研究報告

1 研究目的

わが国のがん診療成績は欧米先進国に比して同等あるいはそれ以上と信じられているが、その内容は個々の医療施設の小規模な成績の集合に過ぎず、欧米のように高い **evidence level** の標準的治療成績が示せていない。本研究班の目的は、この様な状況を克服することで、わが国におけるがん診療の標準化と質の保証を確保するとともに、得られた成績を広く公開することでわが国のがん診療レベルの向上を計ること、更には、その成績に基づいた今後のがん診療の課題に関する政策提言などを通じて国民社会に貢献することにある。

2 研究方法

本研究班では、全国がん（成人病）センター協議会加盟施設（31 施設）による「がんネットワーク」、および国立がんセンターの傘下に地域の各専門施設を配置した「がん医療ネットワーク」（管轄：厚生労働省医政局国立病院課）から班員を招集し、国内のがん専門医療施設における大規模な診療成績を集積して解析を加えることとしている。また、具体的な研究課題については小班を組織し、臨床試験を含めた評価を与えることにより、標準的な（**evidence level** の高い）がん診療の内容を具体的に提示する。また、標準化の担い手となる若手専門医の教育については、欧米と共通の視野に立った共通の教育

カリキュラムを構築し各施設への普及を図ることとしている。

なお、平成 16 年度より厚生労働省がん研究助成金計画研究班で行われた臨床試験のうち、既に症例登録終了となった課題を当指定班に編入して経過を追跡し、最終的に確定された成績を今後の診療指針として広く公開することとしているが、今年度は原発性胃悪性リンパ腫に関する臨床試験が新たに追加された。

3 研究成果

(1) がん政策医療ネットワークにおける臨床課題解決のためのデータベースの構築に関する研究

当小班は政策医療の一層の推進を目的として、臨床課題別にネットワーク参加施設における診療記録の共有化を図るとともに、得られた共通データベースの解析結果に基づいて諸課題の解決策について提言を行おうとするものである。

これまでに各施設の院内がん登録の実施状況および手術部門の運用状況を調査・解析し、実情を把握するとともに、データ共有化のために収集すべきデータや標準化の方法を検討してきた。今年度は、前年度に収集した手術部門の運用データから各施設の特性と問題点について解析を進めるとともに、新たに各施設のがん化学療法に関する実態調査を着手した。参加 9 施設の 1 か月分の抗がん剤注射処方状況のデータ収集にあたっては、各施設の実情によって、施設の診療データベース、薬剤部の保

有する処方データベース、あるいは保管された注射処方箋のコピーを利用した。これらの情報を、今回の解析のために作成したデータフォーマットに各施設で入力し、収集することにした。今後、各施設の入院/外来における各抗がん剤の使用状況および化学療法の実施状況について解析を進める予定である。

(2) 大腸がんにおける診断、治療、フォローアップの標準化を目指した合意形成のための研究

当小班は、大腸がんに対する診断、治療、術後観察（追跡検査）の標準化を行うとともに、過剰診療を抑制し経済効率を高めることにより、合理的な診療体制を構築することを目的としている。現在、その根拠とすべく以下の3つの臨床試験を行っている。1) 術後感染予防のための抗生剤の適切な投与方法に関する無作為化比較試験：本試験では大腸切除が必要な大腸疾患例を抗生剤（セフトラゾン）1g 術前1回投与群と術前後3回投与群の2群に分け、術後感染症（①創感染、②臓器感染：縫合不全を含む腹膜炎や腹腔内膿瘍など、③その他：尿路感染、肺炎、敗血症、感染性下痢など）の発生率の差を検証しようとするものであるが、本年7月に行った中間解析の結果、両群間の有効性に有意差が認められたため中止（有効中止）が勧告された。解析対象は平成16年5月から平成17年4月までに登録された384例中、不適格例や脱落例を除く377例である。術後感染症発生率は、1回投与群190例中40例(21%)、3回投与群187例中24例(13%)で有意差が認められ（ $p=0.034$ ）、中でも創感染では、1回投与群190例中27例（14%）、3回投与群187例中8例（4%）（ $p=0.009$ ）と約3倍の差が認められた。2) Dukes A, B 症例に対する術後長期観察間隔の標準化に関する検討：低再発リスク症例を、術後に密な間隔で画像検査を行う intensive 群とより緩やかな経過観察を行う conventional 群に無作為に割り付けし、各群の累積5年生存率を検証しようとするものである。本試験は平成15年9月より登録を開始し、平成17年3月現在270例が登録されている（Dukes A：134例、Dukes B：136例）。予定登録症例数は、Dukes A, B ともに1群各200例、全体で800例であり、現時点で約1/3が登録されたに過ぎない。このため、当初の症例集積期間（3年）を更に2年延長した。3) 下部直腸早期がんに対する新治療法の開発：肛門管およびその近傍に存在する下部直腸の T1, T2 がんに対する補完療法として局所切除+放射線化学療法（完全切除例での high-risk T1 症例、および T2 症例に補助療法として小骨盤を中心とした 45Gy の放射線照射および同時併用の 5-FU 持続静注療法：250 mg/m²/日を加

える）の前向き臨床試験を展開中である。目標症例数は55例で、平成15年4月より登録を開始したが、本年7月現在32例と症例集積がやや不良であり、現在ICの取得に努めている。

(3) 早期消化管がんに対する内視鏡的治療法の開発と評価に関する研究

当小班は、早期消化管がんに対する内視鏡的粘膜切除術（Endoscopic Mucosal Resection：EMR）の再評価と適応拡大を検討するとともに、大型の病変に対して一括切除が可能な切開剥離法（Endoscopic Submucosal Dissection：ESD）の改良開発と普及により、治療成績の一層の向上を図ろうとするものである。本年度に得られた主な成績は以下の通りである。1) 早期胃がんに対するESDの長期術後成績において、組織学的に治癒切除とされた場合は適応拡大病変を含めて全例遠隔転移や胃がん死を認めない（ $n=323$ 、観察期間中央値41.1ヶ月）。一方、非治癒切除とされた101例および病理組織判定不能とされた21例では、追加外科切除を行った74例中5例（6.8%）にリンパ節転移、1例に胃癌死を認め、追加切除を行わなかった48例中1例に胃癌死を認めており（いずれも遠隔臓器転移）、追加切除を行わない場合はきわめて慎重な対応が必要である。2) 分化型早期胃癌における劣勢未分化型成分の出現はリンパ節転移のリスクを増加しない（0/198）。3) 未分化型粘膜内がん手術例の組織像を検討すると、リンパ節転移例（ $n=12$ ）では全例でがん巣が粘膜筋板直上まで認められるのに対し、転移陰性例は39%（9/23）に過ぎず、転移予測因子となり得る可能性が示唆される。4) 大腸の Lateral spreading tumor（LST）に対する分割切除は容認できるが、非顆粒型では粘膜下浸潤の頻度が高く浸潤部位の予測が難しいことから一括切除が望ましい。5) ESDを安全に行うためには、①切開面を直視するための工夫として Sinker assisted-ESD、②安全に一括切除を行う工夫として B ナイフ（Bipolar needle knife）の使用、③長時間におよぶ手技を患者の苦痛なく行うために CO2 送気法などが有効である。

(4) 頭頸部がん治療の標準化に関する研究

当班の目的は、頭頸部がん治療の標準化にあるが、その道標としての治療ガイドラインを作成中である。本年度までに甲状腺がん、喉頭がん、下咽頭がん、口腔がん、上顎洞がん、上咽頭がん、中咽頭がん、唾液腺がん、原発不明がん、切除不能がん、高齢者のがんに関する診断・治療、また治療後経過観察、術後治療の策定をほぼ完了した。現在は書式の統一と、各項目間の整合性の確認作業に入っているが、診断・治療のアルゴリズムを作成す

ることでより活用しやすい形式となるように配慮したが、高齢者のがん、治療後経過観察、術後治療に関してはアルゴリズムを作成せず本文のみとした。効果の少ないとされる術前放射線治療については推奨しないなど、ある程度の現状の治療への規制も加えた。今後は作成したガイドラインの妥当性を多施設共同研究 (prospective study) によって評価し、標準的治療への展開の第一歩とする予定である。

(5) 固形がんに対する放射線治療の標準化に関する研究

当班は、わが国のがん専門医療施設の実態調査等に基づいて、放射線治療上の問題点と課題を明らかにするとともに、提起された課題を克服することで標準化の実現を図ろうとするものである。全がん協加盟施設 (データ提供: 28 施設) は放射線治療設置施設 (n=726) の 3.8% を占めるに過ぎないが年間新規治療患者数では 15,729 名であり全国集計 149,793 名の 10.5% を占めている。また、放射線治療の主体をなす外照射に関して、施設当りの平均患者数では 561.8 名と全国施設平均の 2.72 倍を示す。また機器 1 台あたりでも 321.0 名であり、1999 年の 256 名を越え、機器の増加が顕著でないために相対的に負荷がかかっている。この数字は米国放射線治療施設での装置当りの基準とされる年間 200 名を大きく上回り、しかもなお患者数増加が顕著であることを示している。また、医師 1 名あたり治療症例数が 300 名/年を越えると放射線治療の品質を保証し難いことから警告値とされているが、全がん協 28 施設の中で警告値を超えている施設は 6 施設、280 名までとした場合は更に 3 施設増えて 9 施設となる。これらの施設では医師にかかる負荷は大きく、品質に関しては保証しきれない状況と言える。一方、経費的には年間患者数 250-300 名/台が採算ラインであるが、全国的にみると、多くの国立病院や県立病院でこの採算ラインを下回っている。これらの比較的少数治療施設から全がん協施設などへの機器・人員の統合 (集中化と適正配置) や、患者適応における従来の治療概念 (特に症状緩和のための照射) の見直しなど、治療体系自体への根源的な対応が強く求められる。

(6) がん患者における緩和医療 (支持療法) の普及と評価に関する研究

当班の目的は、がん患者のさまざまな肉体的・精神的・社会的な苦痛に対して、様々な医療施設で行われている緩和医療を、一般病棟でも広く行えるよう標準化しこれを普及させることにある。本年度の主な研究成果は以下の通りである。1) がん患者の抑うつに関する研究: 終末

期がん患者の抑うつに対する複合的介入は、一定の割合で症状改善が得られるが、予後 1 ヶ月以内の症例では治療可能性が低く、スクリーニングによる早期発見、予防的介入、静注用非三環系抗うつ剤の開発の必要性が示唆された。2) 呼吸困難の症状マネジメント: 生食と frosamide の吸入に関する double blind cross over study: 中間解析を行ったが、特に重大な副作用や倫理的問題点も無く、研究継続となった。3) 呼吸困難緩和ガイドラインの作成: 現在、臨床的問題の明確化と、research question の絞込み作業中である。4) 難治性がん性疼痛に対する誰でもできる鎮痛補助薬ラダゲの開発: 第 1 段階の抗痙攣剤 clonazepam、第 2 段階の抗うつ剤 amoxapine の検証が終了し、今回第 5 段階のくも膜下における局所麻酔薬+オピオイドの有効性について検討を行っている。5) 緩和医療における分子治療薬の研究: EGFR 遺伝子変異陽性の末期肺がん患者に対するゲフィチニブを投与し、その腫瘍効果と共に、seven-item lung cancer subscale にて症状緩和、QOL の評価を行う前向き臨床試験を開始した。

(7) がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価の開発に関する研究

本班の目的は、がんネットワークおよびがん政策医療ネットワークにおける効率的かつ体系的な臨床腫瘍学の専門的卒後教育体制を整備し、それを実践するとともに評価し、がん専門診療施設における最適な診療教育体制を確立することにある。本年度の主な研究成果は以下の通りである。1) 共通コアカリキュラムの作成: 全がん協教育委員会と連携のもと、がん研究助成金 11-3 江口班が全がん協に提言した教育プログラム「がん専門医療施設における教育制度実施要領」および「腫瘍内科レジデント概要」、「腫瘍外科レジデント概要」を見直し、ASCO と ESMO が共同編集した Global Core Curriculum の日本臨床腫瘍学会誌と米国腫瘍外科学会による Surgical Oncology Training を採用することとした (既に関係諸団体の承諾は得られている)。2) 今年度から腫瘍放射線科医を班員に加え、放射線腫瘍医の育成および腫瘍内科医・腫瘍外科医に必要な最低限な放射線治療に関する知識・スキルについても検討することとした。3) 臨床教育における実効性の評価については、レジデント自身や指導医が利用し得る腫瘍内科医のためのポートフォリオ (問題解決型学習システム) を試作した。4) 米国における卒後教育プログラム、あるいは審査・認定プログラムについて情報収集したところ、前者について外科や放射線科部門では被我的差が小さく、内科部門で著しく大き

いこと、後者をわが国で遂行するには学会横断的な対応が求められることが判明した。

(8) 計画研究班にて登録終了となった第Ⅲ相試験の経過追跡に関する研究

今年度は登録終了した以下の臨床試験についてその後の経過が報告された。

1) 浸潤性膵頭部膵管がんに対する適正手術確立のための多施設共同研究

本試験は拡大リンパ節郭清手術の方が標準手術よりも長期生存が得られるとの仮説に基づき、平成12年3月より症例集積を開始したが、同15年4月の中間解析 (n=101) で前者が後者よりも有意に良好な予後を得る確率が低いとして中止された (無効中止)。その後の経過観察により新たに膵がん手術例の予後因子が明らかにされつつあり、今後の標準的治療成績としての意義が認められることから、確定5年生存率を得るまで追跡することとしている。

2) 遠隔転移を伴わないⅣ期膵がんに対する適正治療法確立のための多施設共同研究

本試験では遠隔転移を伴わないステージⅣ膵がん症例に対して、2群リンパ節郭清を伴う切除術と5-FU併用化学放射線療法のいずれの治療成績が優るか実証することを目的として開始した。85例の仮登録 (42例が適格例として本登録) 時点で中間解析が行われ、外科切除群の良好な成績により早期中止 (有効中止) が勧告された。しかし、現在多くの症例が生存中で、今後の状況次第では有意差が失われる可能性もあり得るため引き続き追跡中である。

3) 局所進行前立腺がんに対する内分泌療法・放射線療法併用の意義に関する研究

本試験は局所進行前立腺がんの放射線治療後に、持続的内分泌療法 (CAS) を行う群と間断的内分泌療法 (IAS) を行う群との無再発生存期間を比較する第Ⅲ相試験である。目標症例数 (300例) を越える322例が登録された。両群を併せたPSA非再発率は3年で0.912 (0.832 - 0.991)、5年の予測は0.858 (0.736 - 0.985) と、良好に推移している。

4) 原発性胃悪性リンパ腫に対する非外科的治療の適応と有効性の評価に関する研究

本研究は、限局期胃悪性リンパ腫を組織学的にMALTリンパ腫と浸潤性リンパ腫に分け、前者には除菌療法 (無効例には放射線療法を追加)、後者には放射線化学療法を選択し、その有効性が外科手術に匹敵する可能性があるか否かを評価しようとするものである。前者は平成15年

12月で150例の症例登録を終了、本年6月現在、適格例132例の3年治療成功生存率が95%、3年生存率が99%と極めて良好な結果を得ている。後者は平成15年2月で症例登録 (n=55) を完了し、Primary endpointである臨界毒性の発生は認められず、適格例 (n=52) の治療成績は、CR率92%、3年無増悪生存率88%、3年生存率94%ときわめて良好である。

4 倫理面への配慮

本研究における倫理面への配慮については、1) 臨床試験の倫理性・安全性を高めることを重要課題と位置付け、インフォームド・コンセントを実践している。また、説明と同意の文書を一体化した説明・同意文書を使用し、患者本人からの自筆による同意を原則としている。多施設による臨床試験の場合は、倫理面に十分配慮したプロトコルを作成し参加する各施設の倫理審査委員会の承認を得た上で臨床試験を実施する。2) データベースの設計・構築にあたっては、匿名化等の仕組みを導入し個人の情報保護に万全を期す。本研究班では、個人が特定できないようプライバシーの保護を優先課題として取り組んでいる。

研究成果の刊行発表

外国語論文

1. Muto M, Yoshida S, et al: Endoscopic mucosal resection in the stomach using the Insulated-tip needle knife. *Endoscopy* .37: 178-82, 2005.
2. Sano Y, Yoshida S, et al: Optical/digital chromoendoscopy during colonoscopy using narrow band imaging system. *Dig Endosc* (in press)
3. Fu KI, Yoshida S, et al: Hazards of endoscopic biopsy for flat adenoma before endoscopic mucosal resection: a case report. *Dig Dis Sci* .50(7): 1324-7, 2005.
4. Muto M, Yoshida S, et al: Narrow band imaging: a new diagnostic approach to visualize angiogenesis in superficial neoplasia. *Clinical Gastroenterology and Hepatology* 3(7): 16-20, 2005.
5. Muto M, Yoshida S, et al: Risk of multiple squamous cell carcinomas both in the esophagus and the head and neck region. *Carcinogenesis* 26(5): 1008-12, 2005.
6. Yano T, Yoshida S, et al: Distribution and prevalence of colorectal hyperplastic polyps using magnifying pan-mucosal chromoendoscopy and its relationship with synchronous colorectal cancer: A prospective study. *J*

- Gastro Hepatol.* 20(10): 1572-7, 2005.
7. Katada C, Yoshida S, et al: Local recurrence of squamous cell carcinoma of the esophagus after EMR. *Gastrointest Endoscopy.* 61(2): 219-25, 2005.
 8. Yano T, Yoshida S, et al: Photodynamic therapy as salvage treatment for local failures after definitive chemoradiotherapy for esophageal cancer. *Gastrointestinal Endoscopy.* 62: 31-6, 2005.
 9. Tahara M, Yoshida S, et al: Clinical impact of criteria for complete response (CR) of primary site to treatment of esophageal cancer *Jpn J Clin Oncol.* 35: 316-23, 2005.
 10. Tahara M, Yoshida S, et al: Clinical impact of criteria for complete response (CR) of primary site to treatment of esophageal cancer *Jpn J Clin Oncol.* 35: 316-23, 2005.
 11. Fu KI, Yoshida S, et al: Pneumoscrotum: a rare manifestation of perforation associated with therapeutic colonoscopy. *World Gastroenterol.* 11(32): 5061-3, 2005.
 12. Fu KI, Yoshida S, et al: Incidence and localization of lymphoid follicles in early colorectal neoplasms. *World J Gastroenterol.* 11(43): 6863-6, 2005.
 13. Sekine I, Tamura T : Phase 1 clinical trials in oncology. *N Engl J Med.* 352(23): 2451-3, 2005.
 14. Takano T, Tamura T, et al: Epidermal growth factor receptor gene mutations and increased copy numbers predict gefitinib sensitivity in patients with recurrent non-small-cell lung cancer. *J Clin Oncol.* 23(28):6829-37, 2005.
 15. Takano T, Tamura T, et al: Epidermal growth factor receptor gene mutations and increased copy numbers predict gefitinib sensitivity in patients with recurrent non-small-cell lung cancer. *J Clin Oncol.* 23(28):6829-37, 2005.
 16. Kubota K, Tamura T, et al: Pilot study of concurrent etoposide and cisplatin plus accelerated hyperfractionated thoracic radiotherapy followed by irinotecan and cisplatin for limited-stage small cell lung cancer: Japan Clinical Oncology Group 9903. *Clin Cancer Res.* 11(15): 5534-8, 2005.
 17. Yamashiro K: Telecytology in Hokkaido, Japan: results of primary telecytodiagnosis of routine cases. *Cytopathology.* 15: 221-117, 2005.
 18. Yokota T, et al: Diffuse peritonitis caused by perforation of ileal lymphoma: Two case reports and clinicopathological features of 81 cases in Japan. *Leukemia and Lymphoma*, in press, 2006.
 19. Yokota T, et al: Emergency operation for phlegmonous gastritis. *Upsala J Med Sci*, 110: 237-240, 2005.
 20. Yokota T, et al: Pyogenic liver abscesses secondary to carcinoma of the sigmoid colon: a case report and clinical features of 20 cases in Japan. *Upsala J Med Sci*, 110: 241-244, 2005.
 21. Kawase T, Nagai H, et al: CD56/NCAM-positive Langerhans cell sarcoma: A clinicopathologic study of 4 cases. *Int J Hematol*: 81, 323-29, 2005.
 22. Mishima H, Tsujinaka T, et al: sequential treatment with irinotecan and doxifluridine: Optimal dosing schedule in murine models and in a phase I study for metastatic colorectal cancer. *Chemotherapy* 51: 32-39, 2005.
 23. Fujitani K, Tsujinaka T, et al: Phase I and pharmacokinetic study of S-1 combined with weekly paclitaxel in patients with advanced gastric cancer. *Oncology.* 69(5): 414-20, 2005.
 24. Hirao M, Tsujinaka T, et al: Delayed gastric emptying after distal gastrectomy for gastric cancer. *Hepato-Gastroenterology.* 52: 305-309, 2005.
 25. Hirao M, Tsujinaka T, et al: Patient-controlled dietary schedule improves clinical outcome after gastrectomy for gastric cancer. *World Journal of Surgery*, 29(7): 853-857, 2005.
 26. Hirasaki S, Tanimizu M, et al: Treatment of elderly patients with early gastric cancer by endoscopic submucosal dissection using an insulated-tip diathermic knife. *Intern Med.* 44(10):1033-8, 2005.
 27. Hirasaki S, Tanimizu M, et al: Acute pancreatitis occurring in gastric aberrant pancreas treated with surgery and proved by histological examination. *Intern Med.* 44(11):1169-73, 2005.
 28. Furuse J, Yoshino M. et al: Adverse hepatic events caused by radiotherapy for advanced hepatocellular carcinoma. *J Gastroenterol Hepatol.* 20(10): 1512-8. 2005.
 29. Furuse J, Yoshino M. et al: Phase I study of fixed dose rate infusion of gemcitabine in patients with unresectable pancreatic cancer. *Jpn J Clin Oncol.* 35(12): 733-8. 2005.
 30. Yamamoto S, Moriya Y, et al: Safety of laparoscopic intracorporeal rectal transection with double-stapling technique anastomosis. *Surg Laparosc Endosc Percutan Tech* 15: 1-5.2005.

31. Yamamoto S, Moriya Y. et al: Postsurgical surveillance for recurrence of UICC stage I colorectal carcinoma: Is follow-up by CEA justified? *Hepatogastroenterology* 52: 444-9.2005.
32. Moriya Y., et al: Total pelvic exeteration with distal sacrectomy for fixed recurrent rectal cancer *Surg Oncol Clin N Am*, 14: 225-38.2005.
33. Matsushita H, Moriya Y., et al: A new method for isolating colonocytes from naturally evacuated feces and its clinical application to colorectal cancer diagnosis. *Gastroenterology*.129:1918-27.2005.
34. Nakajima T, Moriya Y.et al: Minute depressed-type submucosal invasive cancer; 5mm in diameter with intermediate lymph-node metastasis. *Dis Colon Rectum*. In press.
35. Kosugi C, Saito N. et al: Rectovaginal fistulas after rectal cancer surgery: Incidence and operative repair by gluteal-fold flap repair. *Surgery* 137(3): 329-36. 2005.
36. Wakatsuki K, Saito N., et al: Effects of irradiation combined with cis-diamminedichloroplatinum (CDDP) suppository in rabbit VX2 rectal tumors. *World J Surgery* 29(3): 388-95.2005.
37. Koda K, Saito N., et al: Denervation of the neorectum as a potential cause of defecatory disorder following low anterior resection for rectal cancer. *Dis Colon & Rectum* 48(2):210-7.2005.
38. Fu Kuang-I, Saito N., et al: Pneumocritum: A rare manifestation of perforation associated with therapeutic colonoscopy. *World J Gastroenterology* 11(32): 5061-3. 2005.
39. Matsushita H, Saito N. et al: A new method for isolating colonocytes from naturally evacuated feces and its application to colorectal cancer diagnosis. *Gastroenterology* 129:1918-27.2005.
40. Kosugi C, Saito N., et al: Positron emission tomography for preoperative staging in patients with locally advanced or metastatic colorectal adenocarcinoma in lymph node metastasis: correlation with histopathologic characteristics of lymph node. *Hepato-Gastroenterology* (in press).
41. Kobayashi A, Saito N., et al: Indication for salvage surgery in locally pelvic recurrences of rectosigmoid colon and rectal cancers. *Dis Colon & Rectum* (in press).
42. Hagiwara T, Okamura T., et al: Genetic polymorphism in cytochrome P450 7A1 and risk of colorectal cancer: the Fukuoka Colorectal Cancer Study. *Cancer Res* 65(7) April 1: 2979-82.2005.
43. Endo K, Okamura T., et al: Evaluation of endoscopic mucosal resection and nodal micrometastasis in pN0 submucosal gastric cancer. *Oncology Rep* 13: 1059-63. 2005.
44. Endo K, Okamura T. et al: Gastric adenosquamous carcinoma producing granulocyte-colony stimulating factor. *Gastric Cancer* 8: 173-7.2005.
45. Endo K, Okamura T., et al: A case of esophageal small cell carcinoma with multiple liver metastases responding to chemotherapy with irinotecan plus cisplatin. *J. Exp. Clin. Cancer Res* 24: 647-50.2005.
46. Kondo K., Kobayashi M, et al : Phase 1 evaluation of continuous 5-fluorouracil infusion followed by weekly paclitaxel in patients with advanced or recurrent gastric cancer, *Jpn J Clin Oncol.* 35; 332-7.2005.
47. Matsumoto T, Ohue M.: Feasibility of autonomic nerve-preserving surgery for advanced rectal cancer based on analysis of micrometastases. *Brit J Surg.* 92(11): 1444-8.2005.
48. Kim BM, Ohue M.: Methylation and expression of p16INK4 tumor suppressor gene in primary colorectal cancer tissues. *Int J Oncol.* 26(5): 1217-26.2005.
49. Fukunaga H, Ohue M.: Fusion image of positron emission tomography and computed tomography for the diagnosis of local recurrence of rectal cancer. *Ann Surg Oncol.* 12(7): 561-9.2005.
50. Ikeda M, Ohue M.: High incidence of thrombosis of the portal venous system after laparoscopic splenectomy. *Ann Surg.* 241(2): 208-16.2005.
51. Izawa H, Ohue M.: Effects of p21cip1/waf1 over-expression on growth, apoptosis and differentiation in human colon carcinoma cells. *Int J Oncol.* 27: 69-76. 2005.
52. Nagase T, Yamada T., et al: Solitary fibrous tumor in the pelvic cavity with hypoglycemia: Report of a case. *Surg Today* (2005) 35: 181-4, 2005.
53. Oda I, Saito D., et al: Endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer: Technical feasibility, operation time and complications from a large consecutive series. *Digestive Endoscopy* 17: 54-58. 2005.
54. Muto M, Saito D., et al: Endoscopic mucosal resection in

- the stomach using the insulated-tip needle-knife. *Endoscopy* 37: 178-182.2005.
55. Uraoka T, Saito D et al: Effectiveness of glycerol as a Submucosal injection for EMR. *Gastrointestinal Endoscopy* 61(6): 736-40.2005.
 56. Saito Y, Saito D, et al: A new sinker-assisted endoscopic submucosal dissection for colorectal cancer. *Gastrointestinal Endoscopy* 62(2): 297-301. 2005.
 57. Sakiyama T, Saito D, et al: Association of amino acid substitution polymorphisms in DNA repair GENES, TP53, POLI, REV1 and LIG4, with lung cancer risk. *Intl J Cancer* 114: 730-73.2005.
 58. Saito D, et al: Impact of *H. pylori* Eradication on Gastric Atrophy: Current Status of the Japanese Intervention Trial (JITHP Study) 6th International Gastric Cancer Congress IGCC (Yokohama Japan, May 4-7, 2005.)
 59. Nasu J: Characteristics of metachronous multiple early gastric cancers after endoscopic mucosal resection. *Endoscopy* 37(10): 990-3.2005.
 60. Hirasaki S, Nasu J: Gastritis cystica polyposa concomitant with gastric inflammatory fibroid polyp occurring in an unoperated stomach. *Intern Med* 44(1): 46-9.2005.
 61. Hirasaki S, Nasu J: Treatment of elderly patients with early gastric cancer by endoscopic submucosal dissection using an insulated-tip diathermic knife. *Intern Med* 44(10): 1033-8.2005.
 62. Saito Y, et al: A new sinker-assisted endoscopic submucosal dissection method for colorectal cancer. *Gastorintest Endosc.* 62(2): 297-301, 2005.
 63. Uraoka T, Saito Y, et al: Effectiveness of glycerol as a submucosal injection for EMR. *Gastorintest Endosc.* 61(6):736-40, 2005.
 64. Hirano S, et al: Regeneration of aged vocal folds with basic fibroblast growth factor in a rat model: A preliminary report. *Ann Otol Rhinol Laryngol* 114: 304-8, 2005.
 65. Hirano S. Current treatment of vocal fold scarring. *Cur Opinion Otolaryngol Head and Neck Surg* 131: 143-7, 2005.
 66. Goto M, Hasegawa Y, et al: Prognostic significance of late cervical metastasis and distant failure in patients with stage I and II oral tongue cancers. *Oral Oncol* 41:62-9, 2005.
 67. Goto M, Hasegawa Y, et al: Loss of p21 (WAF1/CIP1) expression in invasive fronts of oral tongue squamous cell carcinomas is correlated with tumor progression and poor prognosis. *Oncol Rap* 14: 837-46, 2005.
 68. Tsukuda M, Hasegawa Y, et al: Randomized scheduling feasibility study of S-1 for adjuvant chemotherapy in advanced head and neck cancer. *Br J Cancer* 93: 887-9, 2005.
 69. Terada A, Hasegawa Y, et al: Sentinel lymph node radiolocalization in clinically negative neck oral cancer. *Head Neck* 28:114-20,2005.
 70. Atagi S, Ikeda H, et al: Standard thoracic radiotherapy with or without concurrent daily low-dose carboplatin in elderly patients with locally advanced non-small cell lung cancer: a Phase III trial of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG9812) *Jpn J Clin Oncol* 35: 195-201.2005.
 71. Yonemori K, Ikeda H, et al: Pro-gastrin-releasing peptide as a factor predicting the incidence of brain metastasis in patients with small cell lung carcinoma with limited disease receiving prophylactic cranial irradiation. *Cancer* 104: 811-6.2005.
 72. Morizane C, Ikeda H, et al: Chemoradiotherapy for locally advanced pancreatic carcinoma in elderly patients. *Oncology* 62: 432-7. 2005.
 73. Shibamoto Y, Nishio M, et al: Results of radiation monotherapy for primary nervous system lymphoma in the 1990s. *J. Radiation Oncology Biol. Phys.* 62(3): 809-813, 2005.
 74. Kawashima M, Ogino T, et al: Phase II study of radiotherapy employing proton beam for hepatocellular carcinoma. *J Clin Oncol* 23: 1839-46. 2005.
 75. Nihei K, Ogino T, et al: Phase II feasibility study of high-dose radiotherapy for prostate cancer using proton boost therapy: First clinical trial of proton beam therapy for prostate cancer in Japan. *Jpn J Clin Oncol* 35:745-52.2005.
 76. Ishikura S, Ogino T, et al: A phase II study of hyperfractionated accelerated radiotherapy (HART) after induction cisplatin (CDDP) and vinorelbine (VNR) for stage III non-small cell lung cancer. *Int J Radiat Oncol Biol Phys* 61:1117-22, 2005.
 77. Tahara M, Ogino T, et al: Clinical impact of criteria for complete response (CR) of primary site to treatment of

- esophageal cancer. *Jpn J Clin Oncol* 35:316-23.2005.
78. Furuse J, Ogino T, et al: Adverse hepatic events caused by radiotherapy for advanced hepatocellular carcinoma. *Hepatology* 20:1512-1518.2005.
 79. Yonemori K, Kagami Y, Ikeda H, et al: Progastrin releasing peptide as a factor predicting the incidence of brain metastasis in patients with small cell lung carcinoma with limited disease receiving prophylactic cranial irradiation. *Cancer* 104: 811-6. 2005.
 80. Morizane, C, Kagami, Y, Ikeda, H, et al: Chemoradiotherapy for locally advanced pancreatic carcinoma in elderly patients. *Oncology* 68: 432-7. 2005.
 81. Karasawa K, Kataoka M, et al: Treatment outcome of breast-conserving therapy in patients with positive or close margins: Japanese multi institute survey for radiation dose effect. *Breast Cancer* 12: 91-8. 2005.
 82. Hashine K, Kataoka, M et al: Long-term outcomes of 60 Gy conventional radiotherapy combined with androgen deprivation for localized or locally advanced prostate cancer. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 35: 655-9. 2005.
 83. Tsuchida E, Matsumoto Y, et al: Concurrent chemoradiotherapy using low-dose continuous infusion of 5-fluorouracil for postoperative regional lymph node recurrence of esophageal squamous cell carcinoma. *Esophagus* 2: 25-31, 2005.
 84. Sakiyama T, Saito R, et al: Association of amino acid substitution polymorphisms in DNA repair genes, TP53, PORII, REV1 and LIG4, with lung cancer risk. *Int J Cancer* 114: 730-7. 2005.
 85. Tomizawa Y, Saito R, et al : Clinicopathologic significance of the mutations of the epidermal growth factor receptor gene in patients with non-small cell lung cancer. *Clin Cancer Res* 11: 6816-22. 2005.
 86. Sato K, Saito R, et al : Epigenetic inactivation of the RUNX3 gene in lung cancer. *Oncology Report* 15:129-35.2006.
 87. Iijima H, Saito R, et al : Genetic and epigenetic inactivation of LFT gene at 3p21.3 in lung cancers. *Int J Cancer*: 118, 797-.2006.
 88. Shimoyama M, Shimoyama N, et al : Morphine can produce analgesia via spinal kappa-opioid receptors in the absence of mu-opioid receptors, *Brain Research*. In press.
 89. Shimoyama M, Shimoyama N: Differential respiratory effects of [Dmt¹] DALDA and morphine in mice, *European Journal of Pharmacology* 511: 199-206. 2005.
 90. Shimoyama M, Shimoyama N: Change of dorsal horn neurochemistry in a mouse model of neuropathic cancer pain, *Pain*114:221-30.2005.
 91. Shimoyama N, et al: An antisense oligonucleotide to the N-methyl-D-aspartate (NMDA) subunit, NMDAR1, attenuates NMDA-induced nociception, hyperalgesia and morphine tolerance, *Journal of Pharmacological Experimental Therapeutics* 312(2): 834-40. 2005.
 92. Kohara H, et al: Sedation for terminally ill patients with cancer with uncontrollable physical distress. *J Palliat Med* 8(1); 20-5,2005.
 93. Morita T, Kohara H, Uchitomi Y, et al: Late referrals to specialized palliative care service in Japan. *J Clin Oncol* 23(12); 2637-44,2005.
 94. Morita T, Kohara H, Uchitomi Y, et al: Ethical validity of palliative sedation therapy: a multicenter prospective observation study on specialized palliative care units in Japan. *J Pain Symptom Manage* 30(4); 308-19,2005.
 95. Morita T, Kohara H, Uchitomi Y, et al: Efficacy and safety of palliative sedation therapy: a multicenter prospective observation study on specialized palliative care units in Japan. *J Pain Symptom Manage* 30(4); 320-8,2005.
 96. Akizuki N, Uchitomi Y, et al : Development of an Impact Thermometer for use in combination with the Distress Thermometer as a brief screening tool for adjustment disorders and/or major depression in cancer patients. *J Pain Symptom Manage* 29: 91-9. 2005.
 97. Fujimori M, Uchitomi Y, et al: Good communication with patients receiving bad news about cancer in Japan. *Psycho-Oncology* 14:1043-51.2005.
 98. Fukui T, Uchitomi Y , et al: Clinical effectiveness of evidence-based guidelines for pain management of terminal cancer patients in Japan. *JMAJ* 48: 216-23. 2005.
 99. Matsuoka Y, Uchitomi Y, et al: Biomedical and psychosocial determinants of posttraumatic intrusive recollections in breast cancer survivors. *Psychosomatics* 46: 203-11.2005.
 100. Morita T, Kohara H, Uchitomi Y, et al: Late referrals to specialized palliative care service in Japan. *J Clin Oncol* 23:2637-44.2005.

101. Morita T, Uchitomi Y, et al: Development of a clinical guideline for palliative sedation therapy using the Delphi method. *J Palliat Med* 8: 716-29. 2005.
102. Morita T, Kohara H, Uchitomi Y, et al: Ethical validity of palliative sedation therapy; a multicenter, prospective, observational study conducted on specialized palliative care units in Japan. *J Pain Symptom Manage* 30: 308-19. 2005.
103. Morita T, Kohara H, Uchitomi Y, et al: Efficacy and safety of palliative sedation therapy; a multicenter, prospective, observational study conducted on specialized palliative care units in Japan. *J Pain Symptom Manage* 30: 320-8. 2005.
104. Morita T, Uchitomi Y, et al: Opioid rotation from morphine to fentanyl in delirious cancer patients; an open-label trial. *J Pain Symptom Manage* 30: 96-103. 2005.
105. Okamura M, Uchitomi Y, et al: Psychiatric disorders following first breast cancer recurrence; prevalence, associated factors and relationship to quality of life. *Jpn J Clin Oncol* 35:302-9. 2005.
106. Shimizu K, Uchitomi Y, et al: Usefulness of the nurse-assisted screening and psychiatric referral. *Cancer* 103:1949-56. 2005.
107. Sugawara Y, Uchitomi Y, et al: Occurrence of fatigue and associated factors in disease-free breast cancer patients without depression. *Support Care Cancer* 13:628-36. 2005.
108. Yoshikawa E, Uchitomi Y, et al: No adverse effects of adjuvant chemotherapy on memory function and hippocampal volume in Japanese breast cancer survivors. *Breast Cancer Res Treat* 92:81-4. 2005.
109. Matsuoka Y, Uchitomi Y, et al: Intrusion in women with breast cancer. In: PTSD; Brain Mechanisms and Clinical Implications. (Eds) Kato N, Kawata M, Pitoman RK, Springer. pp 169-78. 2006.
110. Hotta K, Shinkai T, et al: Phase I study of irinotecan and amrubicin in patients with advanced non-small-cell lung cancer. *Anticancer Res.*, 25: 2429-34, 2005.
111. Sawada S, Shinkai T, et al: Advanced age is not correlated with either short-term or long-term postoperative results in lung cancer patients in good clinical condition. *Chest* 128: 1557-63, 2005.
112. Aoki M, Yamamura Y: A full genome scan for gastric cancer. *J Med Genet.* 42:83-7, 2005.
113. Tsukamoto T, Yamamura Y: Sox2 expression in human stomach adenocarcinoma with gastric and gastric-and-intestinal-mixedphenotypes. *Histopathology*, 46: 649-58, 2005.
114. Otsuka T, Yamamura Y: Coexistence of gastric- and intestinal-type endocrine cells in gastric and intestinal mixed intestinal metaplasia of the human stomach. *Pathology International*, 55:170-9, 2005.
115. Tanaka D, Yamamura Y: Polymorphism of dihydropyrimidine dehydrogenase (DPYD) Cys29Arg and risk of six malignancies in Japanese. *Nagoya J Med Sci.* 67:117-24, 2005.
116. Kodera Y, Yamamura Y: Prognostic significance of intraperitoneal cancer cells in gastric carcinoma: detection of cytokeratin 20 mRNA in peritoneal washes, in addition to detection of carcinoembryonic antigen. *Gastric Cancer*, 8:142-8, 2005.
117. Mizoshita T, Yamamura Y: Microsatellite instability is linked to loss of hMLH1 expression in advanced gastric cancers : lack of a relationship with the histological type and phenotype. *Gastric Cancer.* 8:164-72, 2005.
118. Mochizuki Y, Yamamura Y: Laparoscopic wedge resection for gastrointestinal stromal tumor of the stomach: initial experience. *Surgery Today*, in press
119. Ito S, Yamamura Y: Prospective validation of quantitative CEAmRNA detection in peritoneal washes in gastric carcinoma patients. *Br J Cancer*, 93:986-92, 2005.
120. Watanabe S, Tsuchiya R et al: Institutional report- Thoracic general The new strategy of selective nodal dissection for lung cancer based on segment-specific patterns of nodal spread. *Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery*, 4: 106-9, 2005.
121. Yamanaka H, Ito K, et al: Effectiveness of adjuvant intermittent endocrine therapy following neoadjuvant endocrine therapy and external beam radiation therapy in men with locally advanced prostate cancer. *Prostate* 63: 56-64, 2005.
122. Ito K, et al: Prostate carcinoma detection and increased prostate-specific antigen levels after 4 years in Dutch and Japanese males who had no evidence of disease at initial screening. *Cancer* 103: 242-50, 2005.
123. Akimoto T, Ito K, et al: Acute genitourinary toxicity after high-dose-rate brachytherapy combined with

- hypofractionated external-beam radiation therapy for localized prostate cancer: Correlation between the urethral dose in HDR brachytherapy and the severity of acute genitourinary toxicity. *Int J Radiat Oncol Biol Phys* 63(2): 463-71, 2005.
124. Akimoto T, Ito K, et al: Acute genitourinary toxicity after high-dose-rate brachytherapy combined with hypofractionated external-beam radiation therapy for localized prostate cancer: Second analysis to determine the correlation between the urethral dose in HDR brachytherapy and the severity of acute genitourinary toxicity. *Int J Radiat Oncol Biol Phys* 63(2): 472-8, 2005.
125. Koike H, Ito K, et al: Insulin-like growth factor binding protein-6 inhibits prostate cancer cell proliferation: Implication for anticancer effect of diethylstilbestrol in hormone refractory prostate cancer. *Br J Cancer* 292: 1538-44, 2005.
126. Yokoyama Y, Nagino M, Nimura Y et al: Intense PET signal in the degenerative necrosis super-imposed on chronic pancreatitis. *Pancreas* 31(2): 192-4, 2005.
127. Lyshchik A, Doi R, et al: Dual-phase (18)F-fluoro-2-deoxy-d-glucose positron emission tomography as a prognostic parameter in patients with pancreatic cancer. *Eur J Nucl Med Mol Imaging*. 32(4): 389-97, 2005.
128. Imamura M, Doi R, et al: New pancreas-preserving total duodenectomy technique. *World J Surg* 29(2): 203-7, 2005.
129. Toyoda E, Doi R, et al: Analysis of E-N-cadherin, β -catenin and γ -catenin expression in human pancreatic cancer. *Pancreas* 30(2):168-73, 2005.
130. Doi R, et al: Impact of reconstruction methods on outcome of pancreatoduodenectomy in pancreatic cancer patients. *World J Surg* 29(4): 500-4, 2005.
131. Kawamura, J, Doi R, et al: Multiple endocrine neoplasia type 1 gene mutations in sporadic gastrinomas in Japan. *Oncol Rep* 14(1): 47-52, 2005.
132. Mori T, Doi R, et al: Regulation of the resistance to TRAIL-induced apoptosis as a new strategy to pancreatic cancer. *Surgery* 138(1): 71-7, 2005.
133. Saga T, Shimatsu, Doi R, et al: Morphological imaging in the localization of neuroendocrine gastroenteropancreatic tumors found by somatostatin receptor scintigraphy. *Acta Radiol* 46(3): 227-32, 2005.
134. Kami K, Doi R, et al: Down-regulation of survivin by siRNA diminishes radioresistance of pancreatic cancer cells. *Surgery* 138(2): 299-305, 2005.
135. Koizumi M, Doi R, et al: Pancreatic epithelial cells can be converted into insulin-producing cells by GLP-1 in conjunction with virus-mediated gene transfer of pdx-1. *Surgery* 138(2): 125-33, 2005.
136. Kataoka K, Doi R et al: Expression and prognostic value of tuberous sclerosis complex 2 gene product tuberin in human pancreatic cancer. *Surgery* 138(3): 54-9, 2005.
137. Terada T, Doi R, et al: Expression profiles of various transporters for oligopeptides, amino acids and organic ions along the human digestive tract. *Biochem Pharmacol Biochemical Pharmacology* 70(12): 1756-63, 2005.
138. Tomita T, Doi R, et al: GPR40 gene expression in human pancreas and insulinoma. *Biochem Biophys Res Commun*. 338: 1788-90, 2005.
139. Oya N, Doi R, et al: Chemoradiotherapy in Patients with Pancreatic Carcinoma: Phase-I Study with a Fixed Radiation Dose and Escalating Doses of Weekly Gemcitabine. *Pancreatolgy* 6(1-2): 109-16, 2005.
140. Furuyama K, Doi R et al: Focal adhesion kinase is not a prognostic factor in pancreatic cancer patients. *World J Surg* 30(2):219-26, 2006.
141. Ito D, Doi R et al: In vivo antitumor effect of the mTOR inhibitor CCI-779 and gemcitabine in xenograft models of human pancreatic cancer. *Int J Cancer* 118(9):2337-43, 2006.
142. Tulachan S.S, Doi R et al: Mesenchymal epimorphin is important for pancreatic duct morphogenesis. *Dev Growth Differ*. 48(2):65-72, 2006.
143. Fukuda A, Doi R, et al: Wright, C.V.E., Chiba, T. Loss of major duodenal papilla results in brown pigment biliary stone formation in *pdx1* null mice. *Gastroenterology* 130(3): 855-67, 2006.
144. Ishikura S, Mera K, et al: Japanese multicenter phase II study of CHOP followed by radiotherapy in stage I-II, diffuse large B-cell lymphoma of the stomach. *Cancer Sci*. 96(6):349-52, 2005.
145. Yoshino T, Mera K et al: Epstein-Barr virus-associated gastric diffuse large B-cell lymphomas are resistant to non-surgical therapy. *Cancer Science* 97(2):163-6, 2006.

日本語論文

1. 山城勝重：テレサイトロロジーの応用、地域医療における大きな貢献、癌の臨床、51:687-90. 2005.
2. 磯部 陽、窪地 淳：増える超高齢者への医療、超高齢者のケアのコツ②消化器疾患、胃癌の手術、JIM, 16(2):114-7, 2006.
3. 那須淳一郎、谷水正人、他：家族歴調査のシステム化による家族性腫瘍相談室の運営、家族性腫瘍、5(1):57-60, 2005
4. 那須淳一郎、谷水正人、他：遺伝相談のカルテ。家族性腫瘍、5(2):105-8, 2005
5. 梶原猛史、谷水正人、他：膵癌に伴う上部消化管病変の検討、Gastroenterol Endoscopy、47(6):1220-1226, 2005
6. 森谷亘皓、他：骨盤内臓全摘術（total pelvic exenteration, TPE）、手術 59: 833-40.2005.
7. 森谷亘皓：進展様式に基づいた消化器癌手術のこつと工夫 -7.進展様式に基づく直腸癌術式の選択と手術のコツ-、日外会誌、106(4):302-5.2005.
8. 藤田 伸、森谷亘皓、他：側方郭清、予防的側方郭清と治療的側方郭清、外科治療、28: 799-805.2005.
9. 太田裕之、森谷亘皓、他：腹腔鏡下結腸切除後に肺塞栓症をきたした1例 -症例報告-、日本内視鏡外科学会誌、10:566-70.2005.
10. 上原圭介、森谷亘皓、他：仙骨合併骨盤内臓全摘術、手術 59: 1149-53.2005.
11. 山本聖一郎、森谷亘皓、他：「直腸癌に対する補助化学療法と補助放射線療法」コンセンサス癌治療 4 (3) : 126-9.2005.
12. 森谷亘皓：最新のがん手術 -特集対がん戦略最前線-、Ever 遙か、2:7-10.2005.
13. 藤也寸志、岡村健、他：胃癌治療のプロトコル、臨床外科 60: 59-66.2005.
14. 近藤建：残胃癌発生における Gastritis Cystica Polyposaの意義消化器科 41 : 490-5.2005.
15. 小竹優範、森田克哉、山田哲司 他：上行結腸癌切除後の転移性膵頭部癌の1切除例。日消外会誌 38 (4) : 441-6, 2005.
16. 久保義郎、栗田啓、他：早期胃癌に対する腹腔鏡補助下胃局所切除の治療成績。日本臨床外科学会雑誌 66 (11) : 2639-44.2005.
17. 那須淳一郎、久保義郎、他：家族歴調査のシステム化による家族性腫瘍相談室の運営。家族性腫瘍 5 (1) : 57-60.2005.
18. 津谷康大、久保義郎、他：長軸性胃軸捻転を伴う食道裂孔ヘルニアに合併した胃癌の切除例。日本臨床外科学会雑誌 66 (6) : 1328-32.2005.
19. 棚田稔、久保義郎、他：膵癌治療のプロトコル。臨床外科 60 (11) : 235-42.2005.
20. 沖田充司、久保義郎、他：肺癌との重複癌に対し体腔鏡下に根治切除を施行しえた2例。手術 67(11), 1337-40.2005.
21. 久保義郎、棚田稔、他：直腸悪性腫瘍に対する経肛門的局所切除の治療成績。日本癌治療学会雑誌 40 (1) : 121.2005.
22. 斎藤大三：H. pyloriと胃癌との因果関係は現在どう考えられているか、臨床消化器内科、20(1):39-48.2005.
23. 土井俊彦：切開出力装置の設定とコツ EMRのコツと落とし穴 (1) 上部消化管。中山書店 工藤 進英編 P28-9.2005.
24. 土井俊彦：止血鉗子の使い方とコツ EMRのコツと落とし穴 (1) 上部消化管。中山書店 工藤 進英編P142-3.2005.
25. 土井俊彦：(3) P S D -60 (Olympus) 消化器内視鏡治療における高周波発生装置の使い方と注意点。日本メディカルセンター 丹羽寛文・矢作直久編 p 39-44.2005.
26. 土井俊彦：バイポーラ針状ナイフ 消化器内視鏡 Vol ; 17 No ; 6 p 925-9.2005.
27. 佐々木俊哉、土井俊彦：止血鉗子-Coagrasper 消化器内視鏡 Vol ; 17 No ; 6 p 891-5.2005.
28. 花房正雄、土井俊彦：PSD-60 消化器内視鏡 Vol ; 17 No ; 6 p 934~40.2005.
29. 道田知樹：胃腫瘍EMR例での内視鏡・生検診断の正確性の検討 -切開・剥離法 (ESD) 症例での prospective study- Medical Tribune38(7)p4,2005.
30. 泉裕子、道田知樹、他：出血を繰り返した空腸血管性病変 消化器内視鏡 17(3):382-3, 2005.
31. 中川瑠美子、道田知樹、他：内視鏡的乳頭切除により診断し得た十二指腸乳頭部胃上皮化性の一例 消化器内視鏡 17(3):396-9, 2005.
32. 藤崎順子、高橋 寛、他：胃癌EMR後の異時性多発癌一臨床病理学的検討、胃と腸、40: 1609-21、2005.
33. 門馬久美子：中下咽頭癌の通常観察 胃と腸 vol40.no9 1239-54 2005.
34. 門馬久美子：消化管がんのEMR治療、中下咽頭癌のEMR治療 クニカ。vol32.no5 261-6 2005.

35. 那須淳一郎: 家族癌調査のシステム化による家族性腫瘍相談室の運営, 家族性腫瘍 5(1): 57-60,2005.
36. 那須淳一郎: 遺伝相談のカルテ, 家族性腫瘍 5(1):105-8,2005.
37. 石川 勉,他: 大腸がん検診の方法・効用と問題点, Medicina、42(11)1947-9,2005.
38. 小林 望、石川 勉、他: 大腸sm癌の深達度診断—現状と将来の展望. 消化器内視鏡、(in press.)
39. 斎藤 豊,池原久朝,他:今月のテーマ●拡大内視鏡の最前線 症例 《深達度診断に有用であった症例》 V I 高度不整pit, VI軽度不整pitが併存したsm癌 早期大腸癌 19(2): 206-7, 2005.
40. 斎藤 豊:大腸癌—最新の治療と看護(1) 大腸癌の確定診断と臨床病期診断 がん看護 10(3): 194-9, 2005.
41. 斎藤 豊,松田尚久,他: コンセンサス癌治療 4 早期直腸癌に対する内視鏡的粘膜切除術 (EMR) 134-9, 2005.
42. 平野 滋、他: 下咽頭癌に対する喉頭温存術式の術後発声状況、日気食、56:10-6,2005.
43. 平野 滋、他: 人工内耳装用者の聴覚学習、神経心理、21:44-7,2005.
44. 平野 滋、他: KTPレーザーによる声帯血管拡張性病変の光凝固療法、耳鼻と臨床、 51:344-7,2005.
45. 平野 滋、他: ゴアテックスを用いた甲状軟骨形成術 I 型の工夫、日気食、56:439-44,2005.
46. 平野 滋: 声帯麻痺up to date;喉頭における画像診断の適応は?、JOHNS、21:722-4,2005.
47. 永原國彦、平野 滋: 1.頸部外科のための縦隔臨床解剖、イラスト手術手技のコツ—耳鼻咽喉科・頭頸部外科—咽喉頭頸部編 (村上 泰 監修)、345-9、東京医学社、東京、2005.
48. 永原國彦、平野 滋: 13.甲状腺癌手術—縦隔郭清の実際、イラスト手術手技のコツ—耳鼻咽喉科・頭頸部外科—咽喉頭頸部編 (村上 泰 監修)、458-61、東京医学社、東京、2005.
49. 力丸文秀、冨田吉信: 頭頸部癌化学療法で汎用される抗癌剤—薬理作用、使用法、副作用とその対策—、JOHNS、21:21-5,2005.
50. 力丸文秀、冨田吉信: 当科における舌癌N0 症例の頸部の治療方針、頭頸部外科、14:209-13,2005.
51. 吉野邦俊: 中・下咽頭癌の疫学・臨床統計、胃と腸、40(9):1229-38,2005.
52. 吉野邦俊: 1.下咽頭癌の手術 1)下咽頭癌手術のた
めの臨床解剖、イラスト手術手技のコツ—耳鼻咽喉科・頭頸部外科—咽喉頭頸部編 (村上 泰 監修)、163-6、東京医学社、東京、2005.
53. 吉野邦俊: 1.下咽頭癌の手術 3)咽候食摘 ②粘膜層・筋層切離と止血の要点、イラスト手術手技のコツ—耳鼻咽喉科・頭頸部外科—咽喉頭頸部編 (村上 泰 監修)、175-6、東京医学社、東京、2005.
54. 吉野邦俊: 2.喉頭腫瘍の手術 5)喉頭全摘出術—皮切の選択と術野の確保—、イラスト手術手技のコツ—耳鼻咽喉科・頭頸部外科—咽喉頭頸部編 (村上 泰 監修)、265-7、東京医学社、東京、2005.
55. 上村裕和、吉野邦俊、他: 下咽頭癌切除不能例に関する検討、耳鼻と臨床、51(補 1):S30-6,2005.
56. 長谷川泰久: 6.中咽頭癌の手術 1)中咽頭癌手術のための臨床解剖、イラスト手術手技のコツ—耳鼻咽喉科・頭頸部外科—咽喉頭頸部編 (村上 泰 監修)、128-31、東京医学社、東京、2005.
57. 長谷川泰久: 6.中咽頭癌の手術 2)中咽頭腔へのアプローチ ④下顎スウィング法、イラスト手術手技のコツ—耳鼻咽喉科・頭頸部外科—咽喉頭頸部編 (村上 泰 監修)、138-40、東京医学社、東京、2005.
58. 長谷川泰久: 6.中咽頭癌の手術 4)側壁進行癌の切除と再建 ②下顎骨と翼と突筋の処理、イラスト手術手技のコツ—耳鼻咽喉科・頭頸部外科—咽喉頭頸部編 (村上 泰 監修)、145-7、東京医学社、東京、2005.
59. 加藤久和、長谷川泰久: 6.中咽頭癌の手術 5)軟口蓋の機能再建 ②遊離弁による軟口蓋再建、イラスト手術手技のコツ—耳鼻咽喉科・頭頸部外科—咽喉頭頸部編 (村上 泰 監修)、157-60、東京医学社、東京、2005.
60. 長谷川泰久、門田伸也: 頸部郭清術の分類と名称に関する試案、頭頸部癌、31:71-8,2005.
61. 伊地知 圭、長谷川泰久、他: 原発不明頸部リンパ節転移症例の検討、日耳鼻、108:1083-90,2005.
62. 小川徹也、長谷川泰久、他: 頭頸部扁平上皮癌に対するDocetaxelとCisplatin併用化学療法の第 I 相試験、癌と化学療法、32-977-81,2005.
63. 西條 茂: 咽頭腔でのsafety marginの取り方、イラスト手術手技のコツ—耳鼻咽喉科・頭頸部外科—咽喉頭頸部編 (村上 泰 監修)、143-4、東京医学社、東京、2005.
64. 西條 茂: 下咽頭癌、今日の治療指針、1070-1、医学書院、2005.

65. 舘田 勝、西條 茂、他：MRIファイルー口腔癌、JOHNS、21:413-8,2005.
66. 門田伸也：MRI症例ファイルー甲状腺疾患、JOHNS、21(3),2005.
67. 池田 恢、他：放射線治療事故を今後どう生かすか 一第 17 回学術大会シンポジウム5のまとめー 日放腫会誌 17:133-9,2005.
68. 池田 恢：悪性リンパ腫up-to-date 混沌より新たなエビデンスを求めて 16. 放射線治療の適応と実際 医学のあゆみ 212:389-94,2005.
69. 早瀬尚文、池田 恢、他：放射線治療のリスクマネジメントー放射線治療事故の教訓をどう生かすか 医療安全 No.3:61-4,2005.
70. 西尾正道：食道癌治療の最前線『放射線治療の最前線』. 編集：幕内博康. 消化器病セミナー・へるす出版,東京都,99:129-45,2005.
71. 明神美弥子、西尾正道、他：遠隔転移を伴う食道癌に対する化学療法(および放射線化学療法). 上村直実・菅野健太郎:編集 臨床に直結する消化管疾患治療のエビデンス. 文光堂、東京都,75-7,2005.
72. 西尾正道：放射線で癌をなおす. 医療放射線防護 NEWSLETTER 42:56-9,2005.
73. 西尾正道：総説「小線源治療総論」. 日本医学放射線学会雑誌 65:207-15,2005.
74. 西尾正道：癌治療専門医制度を考えるー国民により良いがん治療を提供するシステムについてー(第 42 回日本癌治療学会総会特別企画より) 日本放射線腫瘍学会. 癌の臨床 51:433-40,2005.
75. 西尾正道：頭頸部の放射線治療に伴う口腔乾燥症について. KISSEIKUR 23(4):13-4,2005.
76. 根本建二、西尾正道、他：JASTRO研究グループによる標準的放射線治療法を用いた食道表在癌の治療成績ー中間報告ー. 日本放射線腫瘍学会誌 17:187-93,2005.
77. 西尾正道、他：疼痛を伴う骨転移癌患者の疼痛緩和に対する塩化ストロンチウム(Sr-89)(SMS.2P)の有効性及び安全性を評価する多施設共同オープン試験. 日本医放会誌 65(4):399-410,2005.
78. 西尾正道：悪性腫瘍に対する放射線治療. 北海道内科医会会誌 第 6 号:5-7,2005.
79. 伊藤芳紀、加賀美芳和、池田 恢、他：骨転移痛に対する放射線療法の実状と新しい試み 緩和医療学 7:366-73,2005.
80. 片岡正明、他：前立腺癌の小線源療法、月刊ナーシング 25: 82-93,2005.
81. 梶原朋子、片岡正明、他：子宮頸癌放射線治療後のMRIと骨盤内制御の関連性についての検討、日医放会誌 65: 438-43,2005.
82. 片岡正明、他：限局性前立腺癌に対するIr-RALSを用いた組織内照射の初期成績. 臨床放射線 50: 645-50,2005.
83. 幡野和男：頭頸部腫瘍における強度変調放射線治療(IMRT) 日本鼻科学会会誌 44 (1) : 83-4, 2005.
84. 幡野和男、小玉卓史他：放射線治療の最前線、IMRTによる治療計画 新医療 12, 78-81,2005.
85. 松本康男、他：I期食道癌に対する放射線治療成績の検討.臨床放射線 50: 864-9,2005.
86. 根本建二、松本康男、他：JASTRO研究グループによる標準的放射線治療法を用いた食道表在癌の治療成績ー中間報告ー. 日放腫会誌 17:187-93,2005.
87. 松本康男、他：肺癌に対する気管・気管支腔内照射. 肺癌 46:23-8,2006.(in press)
88. 斎藤龍生：呼吸困難に対する緩和ケアの実際 消化器外科 : 352,1919-26
89. 下山直人：痛みのコントロール、がんを生きるガイド(日経メディカル編)、日経B P社p168-9 : 2005.
90. 中山理加、下山直人：痛みへのケアについて教えて?、全科に必要な精神的ケアQ&A(上島国利、平島奈津子編)、総合医学社p16-7,2005.
91. 下山直人、他：疼痛対策、緩和ケア、癌治療の新たな試み新編III(西條長宏編)、医薬ジャーナル社p664-79,2005.
92. 下山直人：フェンタニルはこう使う、診療アップデート(日経メディカル編)、日経B P社p223-4,2005.
93. 下山直人、他：モルヒネが効きにくい痛みとその対策、患者の疑問に答えるオピオイドの要点(下山直人編著)、真興交易株式会社医書出版部p85-97,2005.
94. 下山直人、他：痛みのマネジメント、がん緩和ケアに関するマニュアル(武田文和編著:厚生労働省、日本医師会編)、日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団p11-31,2005.
95. 下山直人、他：麻酔科医がペインクリニシャン、そして緩和ケア医となって、日本臨床麻酔学会誌、26(1):18-24,2005.
96. 村上敏史、下山直人：がん治療における緩和ケアチームの役割、癌の臨床、51(10):781-6,2005.
97. 下山直人、他：オピオイドスイッチングにおけるオキシコドン徐放錠の役割、がん患者と対症療法、

- 16(2):33-8,2005.
98. 下山直人：自分に影響を与えた痛みのエピソード、がん患者と対症療法、16(2):69-74,2005.
99. 下山直人：骨転移治療の新たな展開 序、緩和医療学、7(4):349-50,2005.
100. 村上敏史、下山直人：坐薬、口腔粘膜吸収薬、吸入薬—その他、最近の開発薬—、Drug Delivery System、20(5):538-42,2005.
101. 高橋秀徳、下山直人：緩和医療、モダンフィジシャン、25(10):1289-95,2005.
102. 下山直人、他：モルヒネは現在でもがん性疼痛治療におけるスタンダードである、日本臨床麻酔学会誌、25(5):526-32,2005.
103. 下山恵美、下山直人：がん性疼痛のメカニズム、呼吸器科、7(2):159-64,2005.
104. 下山直人、他：神経因性（障害性）疼痛治療法—基礎と臨床—、癌の臨床、51(3):153-7,2005.
105. 下山直人、他：疼痛コントロール、治療、87(4):1571-4,2005.
106. 武田文和、下山直人：がん疼痛緩和対策のアドバイス、がん患者と対症療法、16(1):69-71,2005.
107. 村上敏史、下山直人：突出痛とレスキュードーズ、薬局別冊、56(2):17-24,2005.
108. 下山直人、他：がんのInformed Consentの最近の変化、癌と化学療法、32(2):152-5,2005.
109. 市田智彦、下山直人：WHOラダー第2段階としての役割、緩和医療学、7(1):32-8,2005.
110. 小原弘之：がん患者の呼吸困難の診断.看護技術 51(8):673-6,2005.
111. 小原弘之、他：難治性疼痛とせん妄の関連が疑われた進行食道がんの1例.広島医学 58(8):468-71,2005.
112. 小原弘之、他：がん疼痛マネジメントにおけるオキシコドン-オキシコドン徐放錠の臨床的特性と使用方法の実際-。がん患者と対症療法 16(2):27-32,2005.
113. 宮内貴子、小原弘之、他：ホスピス・緩和ケア病棟におけるアロマセラピーの現状.がん看護 10(5):448-52,2005.
114. 森田達也、小原弘之、内富庸介、他：緩和ケアについての改善点と不満足な点：遺族からの示唆.緩和ケア 15:251-8,2005.
115. 嶋本正弥、内富庸介、他：癌の進行に伴う精神症状; 診断と治療. 癌の臨床 51:205-11,2005.
116. 中谷直樹、内富庸介、他：がんと疫学. 心療内科 9:95-100,2005.
117. 清水研、内富庸介、他：いろいろな症状に対する緩和ケア; その他の書状の緩和ケア. In: 一般病棟における緩和ケアマニュアル. (Eds) 小川道雄, へるす出版pp174-81,2005.
118. 田中桂子：「がん患者の症状緩和（疼痛・呼吸困難・倦怠感）—最新の知見—」 日本胸部臨床、克誠堂出版、64:1-11,2005.
119. 田中桂子：「呼吸困難の診断と治療」癌の臨床、篠原出版社、51(83):171-075,2005.
120. 田中桂子：よくわかるがん患者の症状コントロール「総論 がん患者の症状コントロール」、エキスパートナース、照林社、21(1):98-103,2005.
121. 田中桂子：よくわかるがん患者の症状コントロール「呼吸困難」、エキスパートナース、照林社、21(4):90-5,2005.
122. 田中桂子：よくわかるがん患者の症状コントロール「咳/吃逆」、エキスパートナース、照林社、21(5):74-9,2005.
123. 田中桂子：「がん患者の呼吸困難に対する薬物療法」看護技術、メヂカルフレンド社、51(8):27-30,2005.
124. 田中桂子：「がんの「息苦しさ」とうまくつきあっていくために」、協和企画、2005.
125. 田中桂子：「がん患者の呼吸困難のマネジメント」、協和企画、2005.
126. 田中桂子：「痛み以外にもオピオイドは効くのですか? (呼吸困難、口内炎、下痢)」患者の疑問に答えるオピオイドの要点、真興交易医書出版部、109-20,2005.
127. 田中桂子：「モルヒネとその周辺薬剤における投与のポイント-嘔気/嘔吐-」、オピオイドによる疼痛緩和、三共株式会社、13:2-5,2005.
128. 田中桂子：「緩和医療」、最新医学別冊 新しい診断と治療のABC、最新医学社、191-7, 2005.
129. 畝川芳彦、新海 哲：本邦における肺がん臨床試験の実際：第III相試験 呼吸器科、7:425-32, 2005.
130. 野上尚之、新海 哲、他：非小細胞肺がんに対する化学療法の最新動向：非小細胞肺がんのセカンドライン化学療法 呼吸器科、9:101-9, 2006.
131. 中西速夫、山村義孝：微小遠隔転移の病理と診断、外科、67：876-84,2005.
132. 山村義孝：胃全摘後の空腸間置再建術—愛知県がんセンター中央病院の工夫とコツ、消化器外科、28：1453-61,2005.
133. 山村義孝：胃全摘術の適応と手技、外科治療、93：

- 527-33, 2005.
134. 伊藤誠二、山村義孝：5-FU系抗癌剤抵抗性の進行・再発胃癌に対するweekly paclitaxel療法 feasibility study。癌と化学療法、32：1427,2005.
135. 岡留雅夫、斎藤俊章、塚本直樹 他：婦人科手術後に肺塞栓症を疑われた症例の臨床像に関する検討産婦人科の実際 54:355-9,2005.
136. 塚本直樹、斎藤俊章：各種専門医制度 日本婦人科腫瘍学会 婦人科 腫瘍専門医 産婦人科の実際 54:733-8,2005.
137. 塚本直樹：婦人科腫瘍専門医制度の理念と展開。婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構 化療ニュース 13 (No.4): 1-2,2005.
138. 落合和徳、塚本直樹：日本婦人科腫瘍専門医制度 癌の臨床 51: 427-31,2005.
139. 澤田俊夫：特集・癌検診の現状と問題点「大腸癌検診の意義と課題」、成人病と生活習慣病 35(5):489-94、2005.
140. 澤田俊夫：特集・癌検診の現状と問題点「大腸癌検診の意義と課題」、成人病と生活習慣病 35(5):489-94、2005.
141. 澤田俊夫：視点「がんの予防（下）ー早く見つけて楽に治すー」、上毛新聞 2005.
142. 澤田俊夫：視点「あなたががんと言われたらー2人目の医師の意見をー」、上毛新聞 2005.
143. 澤田俊夫：視点「患者と医師ー思いやる気持ち大切にー」、上毛新聞 2005.
144. 澤田俊夫：在宅ホスピスケアの重要性、在宅ホスピス協会10年の歩み、在宅ホスピス協会編、p20、広研印刷、東京、2005.
145. 澤田俊夫：視点「患者中心のがん医療ー治るようにお手伝いー」、上毛新聞 2005.
146. 澤田俊夫：視点「禁煙のすすめ」、ぐんま経済vol268、朝日印刷工業（株）、前橋、2005.
147. 澤田俊夫：ドクターメールfrom県立がんセンター21「がん告知について思うことーインフォームドコンセントー」、夕刊桐生タイムス 2005.
148. 澤田俊夫：ドクターメールfrom県立がんセンター22「運営の効率化、経営の安定化ーがんセンターの新病院ー」、夕刊桐生タイムス 2005.
149. 澤田俊夫：特集「後期研修プログラム紹介」群馬県立がんセンター、院長より、全自病協雑誌 44(11):1640-1、2005.
150. 澤田俊夫：大腸癌治療ガイドラインー評価委員の立場からー、新しい診断と治療のABC35、大腸腺腫・大腸癌、消化器 5、藤盛孝博編、最新医学社、東京、PP218-26、2006.
151. 武智浩之、伊藤一人、他：多数箇所生検で発見された前立腺癌の前立腺領域別分布、日本がん検診・診断学会誌 12: 148-50, 2005.
152. 山本 巧、伊藤一人、他：PSAスクリーニング導入後10年間の検診発見前立腺癌症例の臨床病理学的特徴の変化、泌尿器外科 18(8): 1000-2, 2005.
153. 武智浩之、伊藤一人、他：前立腺がん検診暴露率と発見がん症例の臨床的特徴の関係。泌尿器外科 18(8): 997-9, 2005.
154. 伊藤一人：前立腺マーカー、検査と技術 33(8): 760-2, 2005.
155. 伊藤一人、他：男性生殖腺、内科学レビュー2005、酒井 紀、他編、総合医学社、pp. 166-70, 2005.
156. 伊藤一人：前立腺癌検診ー早期発見のためにー、Medical Technology 33(4): 384-8, 2005.
157. 伊藤一人：前立腺癌検診のインフォームド・コンセントと将来展望、泌尿器外科 18(8): 897-900, 2005.
158. 伊藤一人：合理的な前立腺癌スクリーニング法：住民検診の経験から、Urology View 3(4): 39-42, 2005.
159. 跡見 裕、税所宏光、大槻 眞、二村雄次、松野正紀：特集 胆・膵疾患の診療をめぐって座談会 胆・膵疾患診療の現況日医雑誌 133(3):309-24, 2005.
160. 土井隆一郎他：胆膵の神経内分泌腫瘍。内分泌学的診断ー内分泌腫瘍の機能的反応性に基づく診断法ー。消化器画像 7(1): 91-7, 2005.
161. 松本卓也、土井隆一郎、他：十二指腸ポリポーシスに対して膵温存十二指腸全摘術を施行した家族性大腸ポリポーシスの1例。日本消化器外科学会雑誌 38(2):243-8, 2005.
162. 土井隆一郎他：浸潤性膵管癌の手術適応。消化器外科 28(2): 169-175, 2005.
163. 土井隆一郎他：エビデンスに基づいた癌化学療法。膵癌。外科 67(4): 441-8, 2005.
164. 土井隆一郎：病期分類と治療方針。インフォームドコンセントのための図説シリーズ・膵癌（本）。Pp46-49, 船越頭博（編）。医薬ジャーナル。2005.
165. 土井隆一郎：膵島腫瘍。専門医のための消化器病学（本）。Pp590-5, 小俣政男, 千葉勉（編）。医学書院。2005.
166. 土井隆一郎他：消化器病診療のためのクリニカルパ

- スの実際. 膵頭十二指腸切除術. 侵襲と免疫
14(1):24-7, 2005.
167. 土井隆一郎 : 膵十二指腸内分泌腫瘍の取扱い.
Medicina 42(7): 1224-9, 2005.
168. 土井隆一郎, 吉田茂昭他 : 進行膵癌への挑戦. 外科切除と放射線化学療法の multicenter randomized trial. *消化器画像* 7(5), 645-51, 2005.
169. 今村正之, 土井隆一郎, 他 : Zollinger-Ellison症候群患者(10人)におけるパリエット錠の臨床評価.
Therapeutic Research 26(6): 1287-308, 2005.
170. 土井隆一郎他 : 膵癌. 消化器疾患. 診療実践ガイド (本). Pp765-8, 千葉勉, 井廻道夫(編). 文光堂 2005.
171. 藤本康二, 土井隆一郎他 : 化学療法の実際. 膵臓がん. 臨床腫瘍内科学入門(本). Pp264-9, 金倉讓(編). 永井書店 2005.
172. 土井隆一郎, 塚田俊彦 : 膵腸管内分泌腫瘍診療の現状と展望. 膵癌・胆道癌の診断と治療—最新の研究動向—. *日本臨床* 64: 71-8, 2006.